

平成29年度 第1回桂川町総合教育会議会議録

日 時 平成29年6月1日(木)
場 所 桂川町住民センター2階 視聴覚室
開 会 15時00分
閉 会 16時18分
出席者 井上町長、瓜生教育長、河部教育委員、田牧教育委員、大塚教育委員
畠中教育委員、山邊企画財政課長、北原学校教育課長、尾園社会教育課長
山上教務係長、森指導主幹
傍聴人 1人

○(山上教務係長) それでは、平成29年度第1回桂川町総合教育会議を始めたいと思います。

挨拶並びに議事進行、井上町長、よろしくお願ひいたします。

○(井上議長) それでは、少し時間前ですけれども、始めていきたいと思いますが、その前に、皆さん方も御承知のように、隣の嘉麻市の産業廃棄物処理場で火災が発生しております。この件につきまして、今日、嘉麻市長から要請がありました。いわゆる消防団の関係で、広域的に支援をするという、そういう協定に基づく要請です。

これによりまして、今日現場に行ってみりました。もう本当に驚くばかりの産業廃棄物の量です。ものすごい量が本当に山積みされている状態で、それに火が入って、現地ではガスが煙もまじったところで発生していますので、もちろんマスクをして行くわけですけれども、それでもどうかすれば気分が悪くなるような状況もありました。

そしてまた、非常に大量なものですから、どうも話を聞くと、ユンボで積み上げていったようなんですが、その作動していたユンボが4台あるわけですが、そのうちの3台が焼けて動けない状態で1台だけが何とか作動しているような状況でした。

消防庁の話によれば、10日間位かかるだろうということでしたけれども、私どもが見る限りでは、10日間のうちにどの程度落ちつくのか、わからない状態だと思います。とにかく量がすごいです。それに火が入って、水をかけているのですが、いわゆる水利が悪いものですから、水を持ってくるのが大変ということで、消防ポンプ車を何台も接続して、河川から水を上げる、あるいは消防のポンプ自動車を持ち込む、そういうような作業。そして、これまでは近隣の田川、直方あたりまでの協力要請でしたけれども、今回、県からその要請をかけるということです。

私はその状況を見ている中で、総務省の消防庁から担当が来ていました。いわゆる調査に当たっているようです。そういう意味では、近隣住民の方も不安に思われていると思いますし、桂川

町としても、あるいは消防団としても、できる限りのお手伝いはしたいと、そういうことで午前中にそういう話をしてきたところです。

直接関係はありませんけれども、隣町のことでありますし、皆さんにお知らせをしておきたいと思えます。

それでは、早速ですけれども、議題のほうに入ります。

両括弧1の「教育の日」の制定についてを議題といたします。この件につきましては、これまでにも何度か議論をしていただきました。今日は、その延長線上にありますけれども、具体的にどういう形で進めていくのか、皆さん方の御意見等を伺いたしたいと思います。よろしくお願いいたします。

これまでの分では、まだ何となく論点が定まっていないという気がしています。いろんな意見があることは確かですけれども、そのいろんな意見の中身といいますか、課題は課題、方向性は方向性、そしてまた一つの視点として、やはり総合教育会議ですから、学校現場はもうそうでしょうけれども、桂川町全体として、この「教育の日」というものをどう考えるか、そういう非常に大きな課題も含まれていると思えます。

まだまだ、今日結論というようなことではありませんけれども、その後の皆さん方の考えといいますか、そういったことも含めて、意見を出していただきたいと思えます。

- (田牧委員) これを進める段取りですが、今後のプランは、事前に啓発活動や運動などが前段階にいると思うんです。そういったものをするためには、先進地がないかどうか、調査も必要だと思います。やってあるところなんかを参考にしながら、本町独自の取組という形で、みんなのものにならないと町民全体のものになりません。やはりみんながそういう気持ちに成っていないと、先に進まないのではないかと思います。形をつくって、後で中身を入れるよりも、やはり事前にそういう根回し的に、順序よく持っていく必要があるかなと思えます。

具体的にまだ、ちょっと、はい。

- (井上議長) 確かにそのとおりだと思いますね。まだ方向性も定まっていない状況だろうと思えます。
- (田牧委員) だから、啓発活動をしないことには、町民全体がそういう意識が高まらないのではなかろうかと思えます。形だけつくっても、器がよくても中身が悪いとなにもならないと思うんです。

それに応じて、どういう啓発活動が必要なのかというような、細かい案を進めていかないことには取り組みようがないと思えます。概略的には、悪いことではないです、いいことだから、やっていたらいいと思えます。

- (井上議長) ほかにいかがですか。

- （田牧委員） 先進地の情報があれば、そういうところも参考にしたほうがいいと思います。
- （井上議長） 事例としては事務局のほうはどうですか。
- （瓜生教育長） 先進地といいますか、先に取り組んでいるところですよ。宗像市、八女市、筑後市、糸島市、全国的には町もありますけれども市が割と多いです。
- （田牧委員） そういった先進地の視察までいかないにしても、既に取り組んであるところは、どのくらいの時間をかけて取り組んでいったか、その時のメリット・デメリットなどの情報を取り寄せて、本町について、それに見合ったような取り組みができるんじゃないかなと思います。
- （井上議長） いずれにしましても、資料を取り寄せることはできるでしょうから参考にはなりません。
- （河部委員） よろしいですか。私の考えは基本的には「教育の日」の制定、そのもの自体が啓発活動だと思うんです。啓発をすることが「教育の日」を制定する趣旨というか、そのことを制定することによって、大いに教育というものに関心を向けるというふうに考えています。
- （井上議長） そうですね、まさにそのとおりの思います。ほか、いかがでしょうか。
- （大塚委員） 啓発活動といっても、桂川町として教育をどんなふうを目指していくのかというところを、学校ばかりではなくて町民に対して、そういうところを少し明らかにしていかないと啓発するにしても、その時その時、何かあったようなものを持ってきても、何をしているのかなと思うんですが。
- （井上議長） この教育大綱の中では、具体的にはどう。
- （瓜生教育長） 10ページ目です。
- （井上議長） 要するに、これに書いてあるのが基本になると思うんですけれども、「町民一人ひとりが、学校・家庭・地域の教育を考える機会として位置づけ、啓発活動を実施する」ということです。それが一つ、桂川町の「教育の日」を定める目的ということになるかと思うわけです。

もう一つ、私もいろいろ考えている中で思ったのは、私どもはこういう形で、今、議論に参加できているわけですが、ここに任された権限というものが明確ではないんです。この会の中で、決めてしまっているのか。この総合教育会議というのは、それだけの権限といいますか、それをやると決めたから、ということで今度は皆さんに啓発するにしても、何となく決められたことを押しつけられているような、そういうイメージに映ってしまう懸念があるわけですよ。

だから、ここでいろいろ議論することが大事だと思いますけれども、例えば議論をして、ある程度まとめたものを、いろんな方法があるでしょうけれども、何らかの形で、町民の皆さんに選択をしていただくとか、どういう形が望ましいと思われるのか、何かそういうアクションが必要ではないかなと思うんです。

だから、今のところはまだ、その前の段階で、例えばアンケートをとろうといっても、そのアンケートとる中身がまだ決まってないという状態があると思います。考え方としては、もう少し話を詰めていく必要があると思っております。

- （田牧委員） 大綱に目をとおして感じていたのですが、この冊子が各戸に配付されていますが、どうですかね。案外ポンと置いてあるかもしれませんし、いろんなケースがありますよね。それが町民のためになるということは、それを活用するとか、文句あったら文句も言ってほしいし、時には改善策があったら出してもらいたい、そういうように開かれた形をつくっていかないことには、なかなか町民に浸透しないと思います。

だから、どっちが先かとかいうのではなくても、例えば教育体系の概念図がありますよね、学校教育の充実、人権尊重、文化芸術の振興、スポーツの推進、生涯学習・社会教育の推進、青少年の健全育成という、6つばかりなんです。中心の柱が真ん中にあって、みんながこのことをどうかみ砕くかということでない、教育の日は形骸化しやしないかと思うんです。忙しくなるけど、地域懇談会みたいに、地域に周知していかないと分からないし、学校では、PTAが一体となって、そういう話を話題としても取り上げるとか、場合によっては子供協議会など入れてもいいですよ。いろんなそういう場面設定をしないと、なかなか町民のものになるのは難しいと思います。

- （畠中委員） ちょっと提案なんですけど、毎年、PTAで教育シンポジウムを開催しています。その時に、例えば今度聞きたい話は何ですかとか言って、アンケートなんかをとる場面があります。そういう時に、町では「教育の日」っていうのをつくろうと思っていますが、どう思いますか、するとしたらどんな内容がいいですかなど、そういうことを投げかけて意見を集めるっていうのも一つの方法かなと思います。

「教育大綱」っていうのがあるんですけども、ご存知ですか。また、こういうのを目指していますけども、あなたは何かしていますかなど、内容はいろいろあると思うんですけど、そういう公の場で意見を求めてみるというのも、ちょっと道筋が立つかなと考えます。

- （井上議長） 確かにそうですね、教育シンポジウムは、そういう関係者の集まりですから、それはいい機会ですよ。山邊課長は何かないですか。

- （山邊財政企画課長） そうですね、教育シンポジウムというのは、歴史のある教育運営の大きな取り組みでもあるんですね。休日を使って半日がかりで、講演会形式だけにとどまらずに、各分科会でしっかりと議論をし、練り上げたものを発表するという会だったんです。だからそういった取り組みと絡めて、何かこの「教育の日」をうまく活用できればいいのかなとは思っています。

それは一つのやり方で、その時のアンケートや議論に使うということもひとつだろうと思うし、取り組みそのものも、教育シンポジウムあたりと絡ましていただければ、教育関係者や住民に

定着した一つの取り組みになります。何かこう、継続性のあるものではないのかなとは思いますが、すけれども。

○（井上議長） 尾園課長はどうですか。

○（尾園課長） 済いません、ちょっとまだ勉強中です。

○（井上議長） やはり、何らかの形で積み上げていく必要があると思うんです。毎回毎回、もとに戻ってということでは、議論として前に進まないという気がするんです。だから、少なくとも道筋を考えながら、今回はここまで、というようなところの一つの目安的なものです。

事務局のほうで何か、意見とかありますか。

○（北原学校教育課長） そうですね、今、言われるように、やはり前回までフリートーキングでおこなってきたんですけれども、ある程度、今、町長おっしゃられるように、一つの道筋を整えるように、「これについて今回は」ということで積み上げていく形にしないと、なかなか焦点が定まらないと思います。前回もどなたかが言われてありましたが、中身が「教育の日」という、すごく大きなテーマですので、ちょっとそこら辺、絞っていく必要があるのかなとは思っています。事務局的な進め方で、話をしましたけれども。

○（森指導主幹） 意識を、町民のボトムアップというんですかね。そういう意識改革ということで、他のところを見ていったら、先ほどの八女市の例では、セレモニーというんですか、式典をしたりしています。そこに入っている人だけではなくて、やはり町民がそういう意識になっていくところでいったら、例えば、どこかが核になって推進しないと広まっていけないのかなと思うんです。学校で取り組んでいるものを、地域の方にも広めるにはどうしたらいいか。そういうところから出発していかないと、なかなか進まないのかなと思いますね。

「いきいき桂川っ子」でもいいんですけど、いろいろな関係団体に伝わるような会合の中で、取り組みをどうやっていきたいと思いますかとか、学校でやっていることをもっと広めていくにはどうしたらいいですかとか、先ほど畠中委員さんが言われた、そういうところで意見をいただきながら広めていくというのが一番の出発点かなと思うんです。

○（井上議長） ひとつ理想とするところは、大体、皆さん一緒だと思うんです。この総合教育会議で「教育の日」を定めようということで、提案がしてあるわけですが、町全体で考えれば、そういう取り組みをとおして、「桂川町は教育に重点を置いた、教育の町です」というイメージを町内の人にもそうでしょうけれども、町外にも発信できるような、そういう基本的な柱は必要だろうと思うんです。

その中で、やはりそこに求められるものは、時代や状況とともに変わっていくと思うんです。例えば、教育に関する大きな問題が発生したとか、そういうところがあれば、そういうものについてのテーマが決まってしまうでしょうし、テーマが動けば、やり方も変わります。だから、その

時その時の行事のやり方というのは、その時々考えればいいことだと思っていますが、ただ、基本になる部分は、しっかり持つておく必要があります。その基本になる部分というのが、やはり学校だけではなく、家庭だけではなく、地域だけではなく、いわゆる全体を総合したところでの教育の町を目指して「教育の日」を定め、啓発活動なんかもやっていこうということだろうとは思っています。

だから、この前から出ていましたように、「教育の日」の考え方として、例えば何月何日というふうになるのか、あるいは教育の日週間という形になるのか、月間という形になるのか、いろんな考え方があるでしょうけれども、住民の皆さんにおおしていくための前段の骨組みというんですか、それをどこかでまとめないといけないと思うんです。

結構大変ですけどね。まとめるの大変ですけども。

- （田牧委員） いいですか、基本的に「教育の日」の制定っていうこと自体が、非常にかたい感じがします。噛み砕いた別の言葉あれば、もっといいですよ。噛み砕いた話をしていかないことには、盛り上がりません。だから、なぜ「教育の日」が必要かということは、町民が概ねそういうムードが高まるということが大事なことです。ここが、僕は一番の基本だろうと考えています。

こうして制定したいという提案はいいと思います。でも、その前の段階が大切です。だから、いろいろデータを集めたり、先ほどのアンケートも含めたり、先進地を調査してみたり、いろいろなものを集約していくのが、まず最初の段階ではないだろうかと思うんです。

- （河部委員） 桂川の「教育の日」も、教育関係の団体を主に、その中に町民の方にも入っていただいて制定の推進協議会を立ち上げてはどうですか。先ほど町長が、ここだけで決めていいのかということをおっしゃいましたよね。それであれば、なおさら制定のための推進協議会が必要だと思います。

- （井上議長） いい意見ですね。教育長どうですか。

- （瓜生教育長） 町全体として、どう考え、どう取り組んでいくかということが大事なわけですが、先ほど出ていますように、いわゆる教育大綱の教育理念がございますよね。教育理念は、これからの不透明な生きていくのが難しい時代に、力強く生き抜いていくというところで、学びですよ、主体的に自らから学ぶというところですよ。つなぎはいわゆるコミュニケーション能力あたりも育成していく。そういったところで、未来人材の育成というところはあくまでも理念ですから、スローガンのようなところですよ。ですから、田牧委員が言われるように、町民がこれを見ても、ああそうだなということで具体性に欠けますよね。

そして、10ページに書いていますけども、学校・家庭・地域の連携が大事ですよ、一緒にやってみようというのも、ちょっとスローガンの、大事ですねというところで終わっています。

それで一つ、押さえておきたいこととして、国の動向というのがあります。今度、学習指導要領も変わっていく中で、これからの子供たちに身につけさせたい資質や能力というところの分で、こういうような表現がしてあるんです。「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会をつくる」と。

今までは、学校で学んだことを地域で生かしていきましょうというところはあったんですけど、これからは、社会で生き延びていく資質や能力を学校教育の中で、先を見通したところで学んでいきましょうと、そういう時代ですよということで、具体的には例えば、「プログラミング教育をやりましょう」、「グローバル社会で生き抜いていくための英語教育をやりましょう」、「豊かな心の育成のための道徳もやりましょう」というのを、学校教育の中で培っていく、そして、それがひいては社会の中で、社会をつくっていく力を育成していこうという流れがあります。そういったところから見たときには、私が考えた試案なんですけれど、キャッチフレーズみたいなものがあつたほうがいいのかと思っています。例えば、「魅力ある桂川は、魅力ある学校づくりから」とか、「よりよい学校教育をとおして、よりよい桂川をつくろう」とか。お互いが協力し合って何かなすのも、今は支援から協働へ、支援ではなくて、一緒にやりましょうということで、学校教育の中でやっていることで、地域や家庭も一緒になってできるもの、そういったものをピックアップして、一緒に取り組んでいきましょうというのが絞られていくのかなという気がするんです。

例えば、小学校6年の社会の授業で、暮らしの中の政治という単元があるんですけども、その中で、町長のまちづくりの講話と子供たちのプレゼンテーションというのがありました。これは、学校の社会科の単元なんですけれども、町のまちづくりという視点から、同じ方向性で一緒にまちづくりをしていこうというところで、子供たちの育成につながっていくものがあります。今、建設しています「いいバイ桂川・とれたて村」、そこには農協や商工会、嘉穂総合高校などが入っていますので、そういうようなところと協働し、農協では金融の仕組みを学ぶとか、商工会では起業について学ぶとか、そういうようなキャリア教育をしていく。

だから、お互いが協力し合って、お互いにメリットがあるっていうんですか、そういうなものを出してもらって、それをやっていくと。そのことは最初に申し上げた、「よりよい社会づくり」、「よりよい桂川町づくり」のために、目標を学校と地域社会が共有して、両者が連携、そして協働ですね、ともに働いて、子供たちのこれからの必要な資質能力をつくっていくというふうにしたらどうかなと、試案ですけども思っております。

また家庭では、家庭教育宣言、規範意識の育成、基本的生活習慣、家庭学習など、そういうようなものは、まさに学校と同じ方向性でいきますから、そういったものなどで少し絞れるかなと思います。

- （井上議長） 要するに具体的に何をするかということについては、そういう面もあるでしょうね。
- （瓜生教育長） そうすると、学校と地域社会が同じ方向で一緒に手をつないでやっていけるのかな。これこれをしてくださいという話ではないので、お互いにボトムアップというものができるとのかなと思います。
- （井上議長） 「教育の日」に何をするかっていうのは、いろいろあるんでしょうけど、どっちの話の先にしたらいいのかが。
- （瓜生教育長） そうですね。
- （井上議長） これは、堂々めぐりになってしまいやすいんですけどね。だから極端に言ったら、もう「教育の日」って、やっぱり要りますかね。「教育の日」がなくても、やるべきことはやらなければいけないですよ。
- （瓜生教育長） 一つのきっかけづくりとか、そういうのはありますよね。
- （井上議長） だから、そこで、あえて「つくる・設ける」という、そのあえて「つくる・設ける」というところをしっかりと大事にしないと。
- （田牧委員） 縛りつけるとかいう意味ではないと思います。ただ、それは縛りつけられたという感覚では、町民ムードは上がりませんよね。だから、そこら辺のところは、さっき河部委員が言われたように、一定の企画を推進していく、やっぱり柱になる、段取りをする、そういうメンバー、学識経験者を含めた組織をつくっていくほうがいいかなとは思いました。
それぞれが、せっかくだいいこと言うても、推進する人がいなければ話にならないです。もちろん町長が率先していただかないといかんですがね。
- （瓜生教育長） だから、魅力ある桂川をつくっていきましょうというところが、一つの目標かなと思います。そのためのいろいろな方法の中で、やっぱり教育総合会議ですので、教育というスタンス、教育の中でも社会教育も学校教育もあるんですけども、総合的に何でもなるとちょっと大きくなるので、例えば、学校教育活動の充実をとおして、まちづくりをしていくとか、それに地域社会も参画していただく、協働してもらおうというのも一つの方法であると思います。
- （田牧委員） 確かにその時代を担う、育ち盛りの児童、生徒や学生あたりの教育が一番大事です。もう今が一番大事。その段階では、もちろん学校教育にしっかりしてもらわねければいけないし、我々も援助しないといかんです。と同時にそれを推進していくという柱はやはり要ると思います。
- （瓜生教育長） それが町民にとってわかりやすいかなというところですよ。
- （田牧委員） それに応じて、例えばキャッチフレーズやテーマなど具体的な話し合いの柱を立てて会議をしていく、その段取りじゃないかなと思います。だから、具体的に進めていく柱をつく

っていないことには、先に進まんです。

- （瓜生教育長） 柱も大切ですけど、やはりわかりやすい、キャッチコピーとか、そういうのはあったらいいかなと思います。
- （井上議長） そうですね。
- （田牧委員） これをどう浸透させるかの問題であって、さっきの6つの分野で、共通してこれ辺で話が進められるのではないかなと、具体的な進め方をすると、ちょっと先に行くかなと思います。できるところはできて、できんところはできんです。
- （森指導主幹） ちょっと他のところを見ていたら、先ほども言いましたけれども、例えば青年の主張ではないですが、中学生が意見発表するとか、そういうこともあります。それと、桂川小学校、桂川東小学校もしていますけど読書の日、例えば19日を学校の「教育の日」とかしながら、そういところに、地域住民に町としての読書、家庭読書など全部そういうのを広げていって、そこから自然発生的に考えていく。私も読書などが一番いいのかなと思います。それか、今度は道徳が始まるので、「道徳の日」じゃないですけども、それは余りにも押しつけになるかなと思うんですけども、そういうところで、広げていくというところも、一つは考えられるかなと思います。読書が、町として一番取り組みやすいかなと思います。
- （山邊企画財政課長） 先ほど、教育長が学校教育の中で得たことを社会に還元させるという言い方をされたんですが、これはもう町に置きかえると、学校教育の中で学んだことをまちづくりに還元させるというようなイメージが湧いたんですね。ことしの2月、住民センターで、桂川小学校の子供たちが町長にプレゼンテーションをしています。町長からまちづくりのテーマっていうのを投げかけられて、それをクラスで話をして、子供たちが自分たちの手づくりの資料をもとに町長にプレゼンをしています。これは非常に目を引くものがありましたし、近隣の自治体も非常に注目したと思うんです。大人がまず、ぼーんと決めて、何々の挨拶運動や声かけ運動などすること、そういったものはありふれて、いろんなところでもやっているんですが、まちづくりに対して、子供が参画し、何かしていくような施策を、いわゆる子供が主役の「教育の日」なのか、あるいは大人主役、大人が何か今までのように道を引いて、段取りを整えて、大人が主役でもっていく「教育の日」なのか、というところも視線の持ち方です。それによってもいろんな施策が立てると思うんです。あるいはその両方をうまくミックスさせた、大人も子供もともに考える「教育の日」ということです。

だから、大人が英知を絞って、経験を生かしてやる行事、あるいは取り組みというものも当然、その「教育の日」なのか、期間というのか週間なのかによっても違ってくると思うんです。それもあるし子供が主役となるこの日は、もう子供が主役となって、逆に子供がまちづくりへのいろんな自分たちの思いやふるさと桂川に対する思い・願い、そういったものをしっかりと学習をし

て、そこで大人たちに逆に投げかけるという、そういうものもあっていいのかなと思います。意外とそういう取り組みというのは、あんまりされていないようです。全国で例を見れば、子ども議会とかそういったことで取り組んでいる町はあるようですけれども、そういったものもちょっとうまくやれば、まちづくりというテーマで考えてもおもしろいのかなと思うんです。

○（井上議長） ほか、いかがでしょうか。どうですか。

ひとつ提案ですけれども、教育大綱にこの「教育の日」を定めるということを、明確にうたっているわけですが、どうなんでしょうか。まだ議論を始めて、そんなに間もないと思っはいるんですけれども、今のままのような状態で、何回も事あるごとに、こういう議論をしていくのか、なにか一つの方向性というか、期限も含めて、例えば今年度中には案をつくるとか、住民の皆さんに問うとか、そういうものはあるとしてもここら辺までというような目標みたいなものが必要なのか。それと先ほど河部委員が言われた、この会議でできる範囲というのは、例えば案をつくるとか、住民の皆さんに問うとか、そういうものはあるとしても、ここで決定というのはなかなか難しいとすれば、いわゆる住民の皆さんに問いかける、その方法なり内容なり、そういったことでワークショップ置くのかというところで、随分取り組みの仕方が変わってくると思うんです。だから、私が思うのは、どういう行事をするにしろ、あるいはどういう行事を学校が取り組むにしろ、やはり一度は町民の皆さんに問いかけ、大方の賛同を得た上でやっていくことは必要だろうと思うんです。

もう一つあるのは、議会との関係もあります。ここには教育大綱で定められているわけですが、議会には「このように決めました」という報告でいいのかどうかというのものもあるわけですね。ですから、そういったものも含めて、大まかなスケジュールといいますか、何かそこら辺の考え方はないでしょうか。そうすると、結構、事務局大変なんですよ、そういうものをつくとまた大変なんですよ。

○（畠中委員） スケジュールですけど、ことしは筑豊ブロックの研修会が11月にある兼ね合いで、教育シンポジウムの開催が遅くなります。だからアンケートを取ろうと思ったら、ちょっと遅くなるんです。その前段階として、地域懇談会あたりで地域の皆さんから意見を集めるという方法も考えられます。

○（井上議長） そこら辺は、やり方と思うんですけれども、そういう時にアンケートを取るというのも、一ついいと思うんです。それはそれでいいと思うんですが、やはり全町的にやろうとすれば、また別の方法を考えなければと思います。少なくとも学校に通っている子供たちの家庭には、学校をとおしてでも、そういうアンケートをして回収するという方法もあるし、町のほうがかれまでもやってきたように、各戸配付でアンケートを取るという方法もあります。

だから、そこら辺もやっぱり一つのやり方と思うんです。もちろん、そうすれば予算もかかり

ます。どういう方法がいいのか。ただ少人数のアンケートだけだと参考にはなりませんけど、ちょっと心もとないかなと思います。

- (河部委員) 今まで何度かこの議論をしてきましたけども、事務局である程度、3つくらいの方向性というか、その案をたたき台として、次回出されませんか、方向づけを。
- (北原学校教育課長) 方向づけですか。
- (河部委員) 決定ではないですよ。3つくらいの方向づけを案として、これで検討して、総合教育会議として、この方向で行きましょうという土台のものを、次回の時にたたき台として出していただいて、それで次回の時にもう方向性を決定すると。
- (北原学校教育課長) 指導みたいになってしまいがちな気がするんですけど、せっかくいい形で、そういうやり方も1つには。
- (河部委員) 基本的には町長のお考えもあるでしょうし、教育長のお考えもあると思います。私としては、皆さんの意見もある程度、出たと思っています。
- (井上議長) 皆さんの気持ちというか、そういったものはある程度一致していると思うんですけども、整理の仕方はそれぞれ違って、それが例えば文章なり、表なりになってくると、共通意識を持ちやすくなると思います。
- (河部委員) だから、次回の時にその合意というところで、この方向で行きましょうという皆さんの合意を得ると。
- (井上議長) 結構、難しいところです。
- (北原学校教育課長) そうですね、今までフリートキングで、今回も資料などお手元に何もありませんけど、何かこう、そういうものがあつたほうが整理がつくということなら、どうぞごいましょう、町長・教育長と話しながら、必要はあると思うんです。
- (井上議長) 私の意見もありますけども、ある程度「教育の日」ですから、教育委員会が主導的に進めていただくというのがいいとは思っていますけど。整理するのは大変でしょうけど。
- (北原学校教育課長) そういうことであれば、そういう形で一つ。
- (河部委員) そうでないと同じ議論を繰り返すことになります。
- (田牧委員) やはり、たたき台があつたほうが話し合いが進めやすいです。それで、その中でおおむね話はこら辺に煮詰まったというところで、柱をきちんと立てて。
- (井上議長) 一応そういうことで、「教育の日」の制定については、次回また皆さんで議論していただくということよろしいでしょうか。
- (全員) はい。
- (井上議長) では、よろしくお願ひします。

それでは、次に移りたいと思います。両括弧2の、「教育の条件整備など重点的に講ずべき施

策について」を事務局のほうから説明をお願いします。

- （北原学校教育課長） 29年度もスタートしまして、本日は6月ということになっております。いろいろ教育条件整備として、町が取り組んでいる中で、今年度スタートして、確定していることについて、御報告をしたいと思います。

まず少人数学級の取り組みですが、前回の会議でも、おおむねこういうふうになるのではないかということをお示しさせていただいたんですが、4月1日の配置ということで、桂川小学校、少人数学級の講師3名、それから桂川中学校3名という形で、桂川小学校が1、2、3年、中学校が1、2、3年という形で、少人数学級を実現しているという状況でございます。

それから、本年度、学力アップの推進の関係ですが、桂川町では23年から学力向上推進強化市町村の指定を受けて取り組みをやってきまして、本年度からまた3カ年、再び学力向上推進強化市町村の指定を受けて、中学校に週12時間の国語の講師が配置となっておりますところでございます。

また昨年に引き続き、これも県費によるクラスターという講師を桂川小学校に週に12時間、桂川東小学校に週4時間という形で配置、それから県費による、これも教育課題対応講師という形で、桂川小学校に週12時間が配置され、それに合わせて町費によりまして各校1名ずつ、いわゆる習熟度別授業のための講師を配置しているという状況でございます。

それから特別支援関係になりますけれども、桂川小学校は本年度対象児童の人数がふえたことに伴いまして、特別支援学級が1クラスふえております。これにつきましては、県費による配置がなされているというところでございます。町としての配置としましては、各学校に特別教育支援員3名と桂川小学校になります。介助員が3名という形で配置されておるところでございます。

それから、パソコン指導関係の助手の配置ですが、平成29年度も引き続き桂川小学校、桂川東小学校を対象に1名配置しております。助手につきましては、今までの方が今年の12月で退職されましたので、29年1月から新たにきていただいている方に引き続き、今年度も配置をしていただいております。

それから、桂川中学校のサポート教室でございますが、これも昨年度まで来られてあった方が退職されたことに伴いまして、本年度は新たな方が1名配置されております。元桂川小学校で教頭をされてあった方でございます。

それから、学校教育指導主幹ということで、ここにもおりますけれども、森先生さんのほうに引き続き、そして、学校支援事業として、学校支援コーディネーターを引き続き、今年度も配置をしていただいております。

スクールソーシャルワーカーにつきましても、昨年に引き続き県費と町費を合わせまして29年度も配置をしているという状況でございます。

以上でございます。

○（井上議長） ただいま事務局から説明がありました。皆さん方のほうから質問、意見等がありましたら、お願いしたいと思います。

○（河部委員） よろしいですか。教育委員会でも申しあげましたけれども、町内の学校施設について、建築後数十年が経過し老朽化が進行しております。厳しい財政状況の中での、効率的、効果的な老朽化対策を進めるべきだと考えます。

これまでのように建築後、40年程度で建てかえるのではなく、コストを抑えながら、建てかえと同等の教育環境を確保するとともに、地域の防災機能強化の観点からも、学校施設などの長寿命化改修の計画を早急に策定すべきだと考えます。

○（井上議長） 意見としてはよくわかりました。長寿命化については、国の大きな施策で、私どものほうでもその対策はやっているところです。具体的にとなってくれば、前にもお話ししたように、これからの桂川町の、いわゆる学校施設関係のあり方、そういったものもしっかり考えておく必要があると思ってます。

やっぱり意見が分かれるところなんです。だからそこら辺が非常に難しいかなと思っはいるんですけども。ただ、いずれにしても、そういうお話が今後だんだん出てくると思います。話題としては大きくなっていくということは承知しておりますけれども。まだまだ、これからの議論ということになると思います。

だから、前に言いました、例えば学校の統合とか、あるいは小中一貫校とか、そういったものがどうなのかですよね。私が聞いている範囲では、メリット・デメリットあり賛否両論ですね。これからもひとつ議論の対象にお願いしたいと思います。

ほか、いかがでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○（井上議長） それでは、両括弧3の「児童・生徒等の生命・身体保護等緊急の場合に講ずべき措置について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

○（北原学校教育課長） 「いじめ、不登校」についてでございますが、いじめにつきましては、前回、平成28年度の第3回の時に報告した後、いじめの報告は届きませんので、28年度としては、桂川小学校で3件、桂川東小学校ではありませんでした。桂川中学校で5件という状況でございます。

それから、28年度における不登校等の件数ということで、不登校、本人の病気、それから家庭の不理解等で、いわゆる30日以上欠席している長期欠席が、桂川小学校で昨年度が8名、桂川東小学校が2名、桂川中学校で25名ということになりますので、合計で35名ということになっております。昨年と比較しますと10名の増になっています。

以上でございます。

- （井上議長） 中学校になって、急に増えるというのは、それは何なのでしょうね。
- （北原学校教育課長） そうですね、中学校で急に多いというのは、どうなのでしょうね。中学校になってくると思春期も迎えますので、いろいろなそういう心の葛藤とか、そういうところもあるのかなとは思いますが、一概それだけではないとは思いますが。
- （井上議長） 教育委員会としては、不登校の問題はどんなふうに。
- （瓜生教育長） まず毎月、不登校、いじめ等については事務局から報告し、その1人1人の内容についての意見等をお聞きし、またそれを学校のほうにフィードバックしながら取り組みをやっているところです。また教育事務所との連携というところもあるんですけども、私が思うには、小学校の時のきめ細やかな対応というところから、中学校に入って自分で考え、自分でやっていたいかなければならない、また教科担任ということなど環境の変化になかなか急には慣れない、馴染めないなどそういうところもあるのかなと思っています。
あと、いろいろな家庭の事情というところもあります。先ほど、10名の増ということでしたが、27年度は確か26年度よりも少なかったですね。
- （北原学校教育課長） 少なかったけど、その時その時によってまちまちですね。減ったり増えたりという感じもあります。
- （瓜生教育長） あと、旧筑穂町のフリースクールとの連携ですね。結構、学校に行けるようになってる人もいますし、またサポート教室での対応で、人数的にはそう多くはないんですけども、復帰した子供たちもふえてきております。あとスクールカウンセラーやソーシャルワーカーとの連携ですね。
- （井上議長） 旧筑穂町にフリースクールがあるのですか。
- （瓜生教育長） あります。「みんなのおうち」です。
- （井上議長） どちら辺になりますか。
- （北原学校教育課長） あそこは長尾になります。米ノ山峠に行く途中にセブンイレブンがありますよね、その裏手のほうですね。
- （井上議長） そこにフリースクールがあるわけですね。
- （瓜生教育長） あります。何人か行ってましたね。
- （井上議長） そこに桂川町から行ってる子がいますか。
- （瓜生教育長） はい、います。そのフリースクールがいいのは、フリースクールだけにずっといるんじゃなくて、学校の復帰についての指導がなかなかいいみたいで、結構、厳しく世の中に生きていくためなら、ある程度の壁は乗り越えなければならないという指導がいいということで何人か復帰もしております。

○（森指導主幹） 中学校の1年生から増える状況は桂川だけではないですね。なぜかといったら、きょう教育長がいましたけれども、小学校の時には先生が家庭訪問したりして、連れてきたら素直に来たり、時々は引張って来る時などもあります。中学校になったら、そういうことは効かなくなりますね。なかなかきめ細やかに家庭訪問ができないというのがありますけどもね。

もう一つは、桂川の例ではないですけども、校則が厳しくなって、これやったらもう、学校に来らせないとか、本人も来ないとか、そういうところで急増しているというところはあるみたいなんです。それで、先ほど言われたフリースクールは基本は中学校でした、でも今は小学校も受け入れるような状況になってきているんですね。ですから、だんだん小学校から来ている中学校の状況が厳しい状況みたいなんです。厳しい状況が小学校から出てきているところもあるんですけども、やはり桂川町の中学校の先生方は、結構、細やかにかかわっていきまして、家庭訪問したり、なるべく登校刺激を与えています。全体的に増えてきているという状況があります。

○（井上議長） 皆さん方のほうから、いかがでしょうか。

○（田牧委員） 中学校しかよく知らなかったんですけど、不登校にかかわらず、いじめも含めて暴力とか、環境の変化を先ほど言われていましたが、成長の過程は急激に、心身の発達も急進的になり、そこでバランスを崩すというのが結構ありますよね。自分ところは具体的に言うと、自分の子供はほったらかして、熱を出したときしか見よらんかった時もありました。そんなときは、やっぱりたばこ吸いよっても気がつかんですね、親も。というか親の分からないように巧妙というか上手です。

だから、この前の自殺の問題にしても、親は分からなかった状態かなと思ったりするんです。日記なんかにしても、あれだけ「いじめから逃れたい」と言って自殺しています。あんなことがすぐに起きたわけではないと思いますよ、これは2年くらい前の話ですけども。

だから、そういったところも含めて、バランスがものすごく難しい時期であると同時に、自分に課せられた先の見通し進路などを含めて子供たちは揺れるんですよ。親との話も少なくなったりして、あんまり言いません。だからバランスの崩れじゃないけど、そこら辺でちょっとつまずいたりしていたら、そこはよく家庭や地域が注意を払っておかなければなりません、手は放しても目は向けていなければいけないです。やはり中学校はどうしても、2年生が3年生になった、特に1年から2年になったら、ぽっと変わるんです。クラス替えがあるでしょ、1年から。そしたら、友達関係など環境が変わるといってそれだけでも揺れるんです。

○（井上議長） 中一ギャップっていうんですか、小学校から中学校に上がる、先ほど言われたように学校が変わる、授業が変わる、友達が変わる、いろんなそういった変化が多い中で、小中一貫であれば、ある意味、継続した部分があるから、そういう部分がかなり緩和されるというような理由で、小中一貫というのが進んできた経過もあると思うんですが現実的にはどうでしょうか。

- （森指導主幹） データは出ているみたいです。
- （井上議長） 出ているんですか？。
- （森指導主幹） はい、五・六年の子供を中学校の先生が教えるから、すんなり中一に上がりやすいと言われていました。
- （井上議長） やっぱり、効果としてはあるわけですね。
- （森指導主幹） 中学校の先生が、小学校の、特に高学年の子供にかかわるみたいですね。
- （井上議長） それと、例えば私どもの小中高時代には考えられんような事案だと思うんです。何人かは悪さ坊主はありましたけれども、ある意味、現代病とは思うんですけれども、今、盛んに言われているゆとり教育の反省とか、そういったものも含めて、何か子供たちの気持ちが弱くなっているというか、何かそこら辺で、結局、生き抜くための教育ということになってくるんでしょう。やっぱり25人という数字は大きいと思うんです。
 ちょっとしつこいですが、25人というような中でも、長期ということではなくて、時々遊んで、トータルして1年間に30日以上とかということが多いということですか。
- （北原学校教育課長） そうですね、ちょこちょこ休んで30日になったという子のほうが、多いかなという気がします。
- （井上議長） ずーっと継続してというのは？。
- （北原学校教育課長） それはそれで、やっぱりそういう子もいます。
- （井上議長） 逆に言うたら、そういう子はどうしているんですか、毎日。
- （山上教務係長） 先生が家庭訪問などはされてるみたいですが、保護者の理解が得られなかったり、子供さんがどうしても行きたくないということで、登校までつながっていません。
- （井上議長） だから、家でぶらぶらしている訳ですか。
- （山上教務係長） そうですね。実際に何をしているのかはというのは、ちょっとわからないですけど、たまに外に出ているのか、ただ家の中でじーっと本を読んだり、ゲームをしたりされているのかっていうのは、そこまではちょっと確認はできていないです。
- （井上議長） なかなか難しいですね。どうぞ。
- （田牧委員） 運動や文化活動などを行っている子は、どちらかといったら、それで発散できるんです。先々この高校に行きたいとか、あの高校に行きたいとかいうのも含めて、将来的に結構展望はありますよね。だけど、そうではなく、要するに無目標で、漫然と何か生きている、これが一番怖いなあと思うんです。そこら辺じゃないかと思います。
- （井上議長） 目標というか。
- （田牧委員） 鬱積した状態でふらふら暮らして目標が定まらなくて、何か自分で生きがいていか価値観も含めて、そういう不安感があるのではないですかね。

- （井上議長） いろんな社会的な問題がありますけれども、ああいうニュースを見た時に、自分の身近とか、ましてや我が子がとか、そういうのはちょっと頭の中にはないですもんね。何となく、人ごとのように受け取りやすいです。それ実際に目の前に出てくると、やっぱり慌ててしまいます。
- （田牧委員） 最近のテレビは、全然おもしろくない。バラエティーなんかにしても人に罵声をあびせ、暴言吐いて相手をけなして、それを笑って過ごしていくでしょ。
- （井上議長） 本当、そう思いますよね。
- （田牧委員） 絶対に影響を受けてると思いますよね。だから僕もおもしろくないから、テレビを切るんです。
- （井上議長） おもしろないけど、見る場合もありますからね。確かに。
そのほか、いかがでしょうか。
両括弧4の「その他」のほうも含めて、御意見等ありましたらお願いしたいと思います。どうでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- （井上議長） それでは、きょうの第1回目の総合教育会議を閉じたいと思います。
きょうはどうも、ありがとうございました。